

2015
アベリスツイス大学サマースクール留学事業
報告書
(2015. 7. 24~8. 9)
(2015. 8. 24~9. 4)



与謝野町

目 次

○交流のあゆみ	
交流のあゆみ	・・・・・・・・ 1
フランク・エバンス氏と与謝野町	・・・・・・・・ 3
アベリスツイス大学と与謝野町	・・・・・・・・ 4
○アベリスツイスの紹介	・・・・・・・・ 5
○アベリスツイス大学の紹介	・・・・・・・・ 6
○2015年アベリスツイス大学サマースクール留学事業日程概要	・・・・ 7
○研修報告書	
一色 規里	・・・・・・・・ 8
和田 楓	・・・・・・・・ 10
坪倉 由里	・・・・・・・・ 26
引率者 永井 大地（与謝野町企画財政課主事）	・・・・・・・・ 34

交流のあゆみ

日 程	内 容
昭和59年11月13日 ～11月 日	フランクエバンス氏が加悦町を訪問 大江山運動公園に平和を願う慰霊碑を建立（11月20日除幕式）
昭和60年6月6日 ～6月13日	細井拓一加悦町長・西原正二議会議長アベリスツイス訪問
昭和61年12月	両町の交流を記念してアベリスツイスの木「キングサリ」を大江山運動公園に植樹
昭和62年12月	フランクエバンス氏加悦町を再度訪問し両町友好の推進を誓う。
	アベリスツイス、タウンホール前に加悦町から贈った桜の木を交流の記念として植樹
平成元年3月	ウェールズ大学国際センター所長ジェフリー・ブラウン氏加悦町訪問
	ウェールズ大学アベリスツイス校への町民語学研修生派遣の道が開かれる。
平成2年6月28日 ～9月12日	ウェールズ大学アベリスツイス校に町民語学研修生2名を派遣
平成3年8月27日 ～9月20日	ウェールズ大学アベリスツイス校に町民語学研修生2名を派遣
平成4年7月1日 ～7月10日	アベリスツイス・ペンウェディグスクールの生徒2名をホームステイで12日間受け入れる。
平成5年11月3日 ～11月11日	小西英雄助役を団長に町内高校生8名がアベリスツイス訪問 ホームステイで8日間滞在
平成6年8月21日 ～9月2日	アベリスツイス・ペンウェディグスクールの生徒2名をホームステイで12日間受け入れる
平成7年10月28日 ～11月10日	町内高校生5名アベリスツイス訪問、ホームステイで10日間滞在、ロンドン3日間 両町の交流を深める。
平成8年7月8日	民間レベルの交流を推進するため、加悦アベリスツイス友好協会が設立される。
平成8年7月14日 ～7月28日	アベリスツイスペンウェディグスクールの生徒8名、教師1名を14日間受け入れる。
平成9年3月30日	外務省の招聘を受け来日したアベリスツイス在住のグウィン・デービス氏とドナルド・グリフィス氏が加悦町を訪問 旧大江山ニッケル鉱山跡や大江山運動公園の平和友好の碑を見学
平成9年10月29日 ～11月12日	町内の高校生5名が、アベリスツイスを訪問し、ホームステイで滞在した ペンウェディグスクール高校生との交流やアベリスツイスの教育・歴史・文化施設などの 見学を行い、ウェールズに対する理解を深めた
平成10年10月20日 ～10月30日	アベリスツイス高校生3名、アベリスツイス加悦友好協会会長、友好協会会員の2名が1 1日間の日程で加悦町を訪問し、ホームステイにより交流を深めた。
平成11年2月9日 ～2月15日	加悦アベリスツイス友好協会が7日間の日程で、6名の社会人訪問団を派遣
平成11年10月28日 ～11月9日	町内高校生5名を12日間の日程でアベリスツイスへ派遣
平成12年10月22日 ～11月4日	アベリスツイス高校生6名と先生1名が14日間の日程で加悦町を訪問し、ホームステイ により交流を深めた。
平成13年	アベリスツイスへの高校生訪問団派遣をアメリカ同時多発テロ事件のため中止
平成14年10月27日 ～11月8日	町内高校生5名を13日間の日程でアベリスツイスへ派遣
平成15年10月24日 ～11月5日	アベリスツイスの教師と高校生6名が13日間の日程で、ホームステイにより滞在。ホス トファミリー、高校生、町内の園児、小中学生をはじめとして町民との交流を行った。
平成16年8月	ペンブライス高校の生徒1名をホームステイにより受け入れた。
平成16年10月30日 ～11月11日	町内高校生6名を13日間の日程でアベリスツイスへ派遣

交流のあゆみ

日 程	内 容
平成17年10月20日 ～11月1日	アベリスツイス高校生6名と先生1名、随員1名が13日間の日程で、ホームステイにより交流を深めた。
平成18年10月27日 ～11月8日	太田貴美与謝野町長を団長に、町内高校生6名を13日間の日程でアベリスツイスへ派遣与謝野町としての交流を記念し、町の木「椿」の苗木を植樹
平成19年10月25日 ～11月7日	アベリスツイスの教師と高校生6名が14日間の日程で、ホームステイにより滞在。与謝野町になって初めての交流で、ホストファミリー、保育所、小中学校、見学施設など与謝野町全域に拡大し、多くの町民と交流を深めた。
平成20年10月29日 ～11月9日	町内高校生6名を12日間の日程でアベリスツイスへ派遣
平成21年10月21日 ～10月29日	アベリスツイス高校生6名と随員2名が9日間の日程で、ホームステイにより滞在。ホストファミリー、高校生、町内の園児、小中学生をはじめとして町民との交流を行った。
平成22年11月2日 ～11月13日	町内高校生6名を12日間の日程でアベリスツイスへ派遣
平成23年10月19日 ～10月26日	アベリスツイス高校生7名と随員1名が9日間の日程で、ホームステイにより滞在。ホストファミリー、高校生、町内の園児、小中学生をはじめとして町民との交流を行った。
平成24年11月3日 ～11月14日	町内高校生6名を12日間の日程でアベリスツイスへ派遣
平成25年10月25日 ～11月5日	アベリスツイス高校生5名と随員1名が12日間の日程で、ホームステイにより滞在。ホストファミリー、高校生、町内の園児、小中学生をはじめとして町民との交流を行った。
平成26年7月5日 ～7月16日	山添藤真与謝野町長を団長に、町内高校生6名を12日間の日程でアベリスツイスへ派遣新たな交流を目指し産業・大学研究施設を視察するとともに、地方政府や大学関係者と接触
平成27年2月23日	与謝野町・アベリスツイス大学間の包括協定を締結
平成27年7月24日 ～8月9日	与謝野町民3名がアベリスツイス大学サマースクール留学事業に参加
平成27年8月24日 ～9月4日	与謝野町民1名がアベリスツイス大学サマースクール留学事業に参加
平成27年9月	与謝野町・アベリスツイス大学間の連携事業が決定

フランク・エバンス氏と与謝野町

—フランク・エバンス(Frank Evans)—

1917年5月23日、Cribyn Lampeter(ウェールズ)に生まれ、第2次世界大戦中、軍人として香港で兵役に就いていた1941年、日本軍の捕虜となり、1943年に日本に送られ、鉱山での労働を強いられました。1945年、終戦と同時に帰国、40年が過ぎた1981年、香港を訪れた帰国時の飛行機内で日本人女性鬼頭さんと知り合い、鬼頭さんの力を借りながら、ついに京都大江山のニッケル鉱山跡にたどりつく。

晩年は、旧加悦町とアベリスツイスの交流推進に力を注ぎ、多くの人から愛され親しまれました。

1996年11月6日亡くなる。享年79歳。

—メッセージ—

著書「ROOL CALL AT OEYAMA」大江山の点呼

Sakura Peace Message By Frank Evans

(桜の平和メッセージ フランク・エバンス)

Consider our blossoms which are beautiful in life and death. Never again let us and human beings die in an ugly holocaust but, instead, allow us all to live and die naturally in perfect peace for ever more.

(咲いているときも、散った後も美しい桜。二度と再び人間が、無残に命を失うことのないように。そして全ての人間が平和の内に生をまっとうできますように。)

—交流のきっかけ—

旧加悦町とアベリスツイスの交流は、第二次世界大戦時に旧大江山ニッケル鉱山での戦争捕虜体験を持つ故フランク・エバンス氏が、鉱山で死んだ戦友の記念碑の除幕式のために、昭和59年に加悦町を訪問したのをきっかけに始まりました。故フランク・エバンス氏は、加悦町との交流の推進に取組み、友好の絆を結ぶ礎を築きました。

—高校生相互派遣交流からアベリスツイス大学との連携へ—

平成4年から、友好の架け橋として未来ある高校生の相互派遣交流を進め毎年度受け入れと派遣を行い、年々交流が深まっています。

与謝野町とアベリスツイスの高校生交流は、双方の友好協会などの交流事業関係者が参加をし、ホームステイや体験を通じてお互いの国の歴史・文化・生活・習慣などを理解することができる貴重な機会となり、両町の交流推進の大きな柱となっています。

今サマースクール事業はこの高校生相互派遣交流事業がきっかけとなり実現しました。



アベリスツイス大学と与謝野町

ーアベリスツイス大学ー



アベリスツイス大学は英国ウェールズのアベリスツイスに位置する大学で、1872年にウェールズ大学アベリスツイス校として設立されました。現在では芸術、社会科学及び化学のアベリスツイス大学の主要学部だけでも7,500人以上の学生が在籍しています。

ー交流のきっかけー

平成26年7月に山添藤真与謝野町長は高校生相互交流派遣事業の参加者と共にアベリスツイスを訪れ、与謝野町とアベリスツイス大学の連携についてアベリスツイス大学関係者と話し合いました。アベリスツイス大学関係者は故フランク・エバンス氏がもたらした与謝野町とアベリスツイスの20年以上にも及ぶ高校生相互交流派遣事業に感銘を受け、フランク・エバンス奨学金の設立及びその他連携協定の締結を提案しました。アベリスツイス大学と与謝野町は帰国後も事務協議を続け、平成26年3月には包括協定を締結し、平成27年9月には連携事業を決定しました。



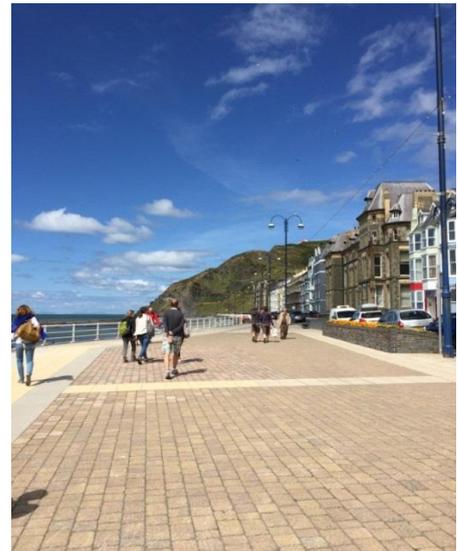
ーアベリスツイス大学サマースクール留学事業ー

英国ウェールズのアベリスツイス大学(Aberystwyth University)で開講されるサマースクール(English and Communicative Skills Course)は、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指すプログラムで、教室での少人数(最大16人)による授業に加え、キャンパス外での社会的プログラム(Social Interest)も含まれています。与謝野町とアベリスツイス大学間で締結された協定書により、与謝野町からの参加者は授業料が15%減免となります。平成27年の募集は下記3コースからの選択でした。

コース	日程	受講料(割引後)
CS3	7月27日(月)～8月7日(金)	385ポンド
CS4	8月10日(月)～8月21日(金)	385ポンド
CS5	8月24日(月)～9月4日(金)	385ポンド

—アベリスツイス（Aberystwyth）—

イギリスのロンドンから西へ列車で約6時間のカーディガン湾に面した人口約12,000人の町です。主な産業は農業(牧畜)、商業、観光業で、ウェールズ大学アベリスツイス校、国立図書館など文教施設があることから学生が多く、世界各国からの留学生も多いところです。レンガ造りの家並みと田園、美しい海岸が印象的な美しい町で、観光地として人気が高く、夏は避暑を楽しむ多くの観光客で賑わいます。ウェールズの歴史と文化を誇りにし、ウェールズ語を多くの人が話し、町のサインも英語とウェールズ語が併記してあります。陽気で歌の好きな親切な人々が多いです



—アベリスツイス大学（Aberystwyth University）—

アベリスツイスの町の北東部に位置します。

学部での勉強だけでなく、毎年開講しているサマースクールにも世界各国から留学生が英語を学びに来ており、他国からの留学生とも交流できます。

また、学内には学生寮、図書館、スポーツセンター、アートセンターなどが併設されています。



月 日	事 項	内 容
6月3日	水 募集開始	広報よさのお知らせ版、与謝野町ホームページ、文字放送、データ放送にて順次募集
7月24日	金 与謝野町を出発	与謝野町役場本庁舎集合、与謝野町長及び与謝野アベリスツイス友好協会長からの激励を受け出発
	関西国際空港からDUBAI国際空港へ	
	DUBAI空港で乗り換え	in DUBAI
7月25日	土 DUBAI空港からBIRMINGHAM空港へ	
	BIRMINGHAM空港から電車でABERYSTWYTHへ	
	ABERYSTWYTH到着	Aberystwyth Universityの学生寮へ入寮
7月26日	日 自由行動	アベリスツイス観光
7月27日	月 Summer School開始	Campus Receptionに集合、オリエンテーション後にクラス分けテストを受ける。同日にSpecial Interest 3コースのうち1コースを選択する。今サマースクール参加者は全員History Courseを選択した。
	午前：オリエンテーション、クラス分け	
	午後：Campus Tour	大学の施設見学
7月28日	火 午前：授業	
	午後：Special Interest	Ceredigion Museum見学
7月29日	水 午前：授業	
	午後：Social Program	King Arthur's Labyrinth (キングアーサーラビリンス) 見学
7月30日	木 午前：授業	
	午後：Special Interest	Constitution Hill散策
	Ceredig氏を訪問	
7月31日	金 午前：授業	
	午後：自由時間	
8月1日	土 Social Program	Cardiff散策
8月2日	日 旧Town Hall前の桜見学	
	Frank Evans氏のお墓参り	
	Corris Railway Museumを見学	Caroline氏の運転、Caroline氏、Jake氏の案内による
	Castle Y Bereを見学	
8月3日	月 午前：授業	
	Rachaelに挨拶	
8月4日	火 午前：授業	
	大学関係者と会談	John Grattann氏、Gary Ransley氏、Rachael Davey氏
	午後：Special Interest	National Library見学
8月5日	水 午前：授業	
	午後：グループワーク	
8月6日	木 午前：授業	
	午後：Special Interest	Aberystwyth大学Old College見学
8月7日	金 午前：授業	サマースクール最終日、授業後に集合写真撮影
8月8日	水 学生寮を退寮	
	ABERYSTWYTH駅から電車でBIRMINGHAM空港へ	
	BIRMINGHAM空港からDUBAI空港へ	
8月9日	水 DUBAI空港から関西国際空港へ	
	与謝野町に帰着	

アベリスツイス大学サマースクール留学事業報告書

一色 規里

▶全体を通して

- ・英語でしか他国の友達・先生と意思疎通ができない→英会話能力の向上
- ・他国の人たちと友達になれる→多文化理解・文化の交流
- ・日本の世界における認知度の度合再認識（東京、大阪、広島はよく知られていたが、京都は想像以上に認知度が低かった）

▶生活

- ・食事はほぼ自炊（和田さん永井さんと協力しあって調理・食材購入していた）
- ・昼ごはんは大学内のカフェ、1回あたりの食費およそ5ポンド、バイキング形式
- ・自炊は調味料持参必須（醤油は現地に小さいものが売っている、ケチャップ・塩・コショウ有り、コンソメスープの素・鶏がらの素・酢やみりん・料理酒・みそはない）
- ・コメはタイ米が主流のようで日本のように粘り気はなく味もないので美味しくない→日本から持参するのも有りか？
- ・弁当箱持参有りかも
- ・味が濃いものが多い、水は基本硬水→体調が2週間通して不安定だった原因の1つか？
- ・食器洗い洗剤・フキン・ハンドソープがない

▶お風呂

- ・シャワー室2部屋のみ、流れが悪くシャワー室内に洋服を置かなければならないが、ナイロンの袋等に入れないと水浸しになり濡れる
- ・髪取りネットやパイプユニッシュみたいなものがあると便利か

▶トイレ

- ・便器掃除用ブラシ有り（洗剤はなし）
- ・トイレットペーパーは1週間につき2個のペースで補充される（自分たちでトイレットペーパーを購入しないと足りなくなる）

▶洗濯

- ・ランドリールーム

→大学の建物ほとんどが、学生証をかざす機械にかざさなければ建物に入らず（ロック解除）、学生証発行には約1週間かかったので、ない間はランドリールームを事務員さんに頼んで開けてもらっていた。

洗濯1回につき2. 2ポンド、乾燥は1ポンド、洗剤は各自で準備が必要。

機械を動かすには専用のカードを買わなければならない、1枚当たり最低10ポンド（内カード代2ポンド、ランドリークレジット代8ポンド）

▶街

時間があるときは街によくいった

ただ、坂がきついで一度降りると上るのが大変

緑と海がとても綺麗でずっとみていたくなるような景色、街の人たちもとても暖かかったカフェが多く時間があれば、また体調を崩すことが少なければもっとまわって見たかった自然がとても豊かなため、勉強がとても捗る環境だと思う

▶授業

やることはとてもシンプルだが説明を聴き取るのが難しい。私は体調不良でほぼ出席できていなかったが、やはり英会話能力をある程度つけてから参加しないと、説明されたことが何かわからないままチンプンカンプンで物事が進んでいくので授業に参加しても勿体ないことをしてしまうように感じた。英会話能力があればディスカッションができるので、たくさん喋ることによって英語を喋れるようになるのではなく、意見のぶつけ合いで自分の思っていることをわかってもらう・相手の思っていることを理解する＝コミュニケーション能力をつける、伸ばすということに繋がるのではないだろうか。私は来年度もしまた今回の事業があれば参加しようかと考えているので、来年は万全に英語が喋れる状態で授業に参加したいと考える。コミュニケーションと多文化理解ができるように日々の英語の勉強は必要であると思うし、また日本では普段の生活で英語を使う機会＝学んだことのアウトプットをする機会があまりにも少ないのも英語を喋るのが苦手な人が多い原因であると考えるので、そういった場を学校で設けていったほうが良いと感じた。

▶日本の文化を世界へ

今まで考えたことがなかったが、日本だけでなく世界の観光地のイメージがある「京都」、留学生や大人の方々に出身が京都だといってもどこなのか全くわかってもらえなかった。日本と近い関係にあるアメリカはおそらく大体の人は知っておられるのだが、京都は私たちが思っている以上に世界的に認知度が低い。日本でよく知られている都道府県は聞いたところ、東京、大阪、その次に原爆が落とされたことで知られているようで広島であった。私は日本＝東京、京都、大阪というイメージがあったのでこの事実には愕然とした。私の父が経営する会社が丹後ちりめんの生地・小物を製造しているので与謝野町と関わりのある方々に日本の文化を知ってもらいたく、商品のちりめんがま口ポーチをプレゼントしたが、京都は絹織物が盛んであるなどもっと昔からある日本の文化、今の日本の文化を積極的に発信していく必要があると思う。どうしたらもっと日本のことを世界の人達に知ってもらえるかが、これからの課題であると考えます。

アベリスツイス大学
サマースクール留学事業
実績報告書

期間：平成 27 年 7 月 24 日（金）～8 月 9 日（日）

和田 楓

この取り組みの概要

与謝野町は、1985年からアベリスツイスと友好交流を開始。
そして、包括連携協定の締結を機に
今回初めて与謝野町からサマースクールの参加学生を募集した。

参加コース

Aberystwyth University Summer School (English and Communicative Skills Course)

詳細：英国ウェールズのアベリスツイス大学で開講されるサマースクールで
英語によるコミュニケーション能力の向上を目指すプログラム。
教室での少人数（最大16人）による授業に加え、
キャンパス外での社会的プログラムも含まれている。
英国内でも高い評価を受けている講座。

期間

コース	日付
CS3	7月27日（月）～8月7日（金）
CS4	8月10日（月）～8月21日（金）
CS5	8月24日（月）～9月4日（金）

*上記の中から希望するコースを選択（連続する複数コースも可能）

行程（CS3の場合）

平成27年7月24日（金）	関西国際空港発
平成27年7月25日（土）	ドバイ経由バーミンガム空港着 鉄道にてアベリスツイスへ 大学寮入寮
平成27年7月26日（日）	街散策
平成27年7月27日（月）	サマースクール ～
平成27年8月7日（金）	
平成27年8月8日（土）	鉄道にてバーミンガム空港へ
平成27年8月9日（日）	関西国際空港着

アベリスツイスについて



場所

イギリスのロンドンから西へ
列車で約6時間のカーディガン湾に
面したところにある小さな町

人口：約 12,000 人

主な産業：牧畜・商業・観光業



町並み：レンガ造りの家並みや田園、
美しい海岸が印象的な美しい町で、
観光地として人気が高く、
夏は避暑を楽しむ多くの観光客で
賑わう。

また、大学や国立図書館などの
文教施設が多いことから学生が
多く、世界各国から留学生も多い。

公用語：ウェールズ語と英語

(与謝野町ホームページ内の「アベリスツイスとの交流」の一部引用)

サマースクールの内容

7月27日（月）

- 1限（9:00~10:30（以下省略）） オリエンテーション
2限（11:00~12:30（以下省略）） 簡単な学力テスト（50問）
午後：講義なし
夜：新入生歓迎パーティー

感想

ジェンガやカラオケなどをして、
いろんな国の人と交流ができてよかった。→



- 7月28日（火） 1限：27日のテスト結果を考慮したクラス分け（3クラス）
その後教室に行き、留学生同士でコミュニケーション
をとってクイズを考える。
2限：いくつかのテーマについて自分で考えて記述する。
午後：Cerdigon Museumに行く。（Special Interest）

↑

アベリスツイスの歴史などが展示してある。→

夜：中国人留学生とアベリスツイスを
散策して料理をご馳走になる。↓



7月29日（水）

1限：3グループに分かれ、1人ずつ自己紹介をする。
そして、隣の人についてほかの人に紹介する。
その後、jigsaw readingをする。

↑

(例)

5等分された文を一つの文章に並び替えるゲーム



2限：ポエム（英語）について学ぶ。
そして、アートセンターに行き、
←展示品をみてポエムを作る宿題が出される。

感想

私は、ポエムを書いたことがなかったので
作るのにとっても苦労した。

午後：King Artbur's Labyrinthへ行く。（Social program）

アベリスツイスから北へバスで50分ほどの所にある
洞窟探索のようなアトラクション

↓

感想

私は参加しなかったが、
楽しかったと聞いて行けばよかったと
少し後悔。



7月30日（木）

1限：先生が好きな食べ物について説明し、それについて答えるという活動をしてから、ボードゲームを行う。



← 2グループ（6人）に分かれ、サイコロを振って止まった所にある質問について文章で答えるゲーム

授業風景→



次に、イギリスのコマーシャル（バターのCM）を見て、その中に出てくる食材や調理法の名前を書きだしていく授業をする。

2限：Lip cync video 作成という宿題が出され、グループ分けをする。

↑

(2グループ)

音楽に合わせてロパクやダンスをする動画のこと

午後：Constitute hillへ行き、自由に散策（Social Program）

↑

アベリスツイスが一望できる丘



7月31日（金）

1限：二人一組になり、教室の壁に貼られているメモに書かれた文章を一人が覚えてパートナーに伝え、それをもう一人が紙に書くという伝言ゲームのようなことをする。



その後、1つのテーマ（自分が大事にしていることなど）を選び、その内容について英語で詳細に書くという作業をする。そして、書き終わった文を先生がチェックし、間違った文法表現を訂正。



2限：世界的有名な絵を10枚見て、グループで話し合いながら値段が高い順に並び替えるということをし、それを終わると全員で答え合わせをした。

その後、4グループ（3人ずつ）に分かれ世界地域（アフリカ・南アフリカ・オセアニア・ヨーロッパ）から1つの地域をくじ引きで決め、決まった地域のアーティストについて調べてポスターにまとめるという宿題が出された。

午後：千葉の大学から留学に来た日本の方（女性）とキャンパス内で出会い、一緒にご飯を食べる。

感想

アベリスツイスに来て、初めて出会った日本人。人違いから始まったこの出会いはとても印象的で、久しぶりに日本語で会話できることが嬉しかった。



8月1日(土)



[Social Program]

カーディフ (Cardiff) へ行く。
アベリスツイスからバスで約3時間。
11時にカーディフに到着し、
16時45分まで自由行動。

←カーディフの街並み

気温はアベリスツイスより暖かく、
近代的な建物が多かった。

カーディフ城 (Cardiff Castle)

街中にあるお城で、多くの観光客で賑わっていた。

城壁内はいくつかの建物があり、
豪勢な部屋がある建物もあった。



部屋の一部→

8月2日(日)



↑

fish&chipsをご馳走してもらおう。

与謝野町とアベリスツイスの交流があったからこそ出会うことができた
キャロラインさん (Caroline) とジェイクさん (Jake) ご夫婦。
お二人には、フランク・エバンス氏のお墓や与謝野町とゆかりがある場所、
アベリスツイスのおすすめの場所を案内して頂いた。
普通の留学では体験できない、特別な出会いの一つとなった。



←与謝野町から贈った桜の木



フランク・エバンス氏のお墓がある場所→



←蒸気機関車

郊外にある古い城跡→



8月3日(月)

1限：イギリスの文化について全員で考える。

↑

例：・アフタヌーンティー
・fish&chips など

そして、イギリス文化の好きなところ、
嫌いなところを文章化。
それが終わると、先生が添削。

*途中、間違いやすい文法について解説してもらう。

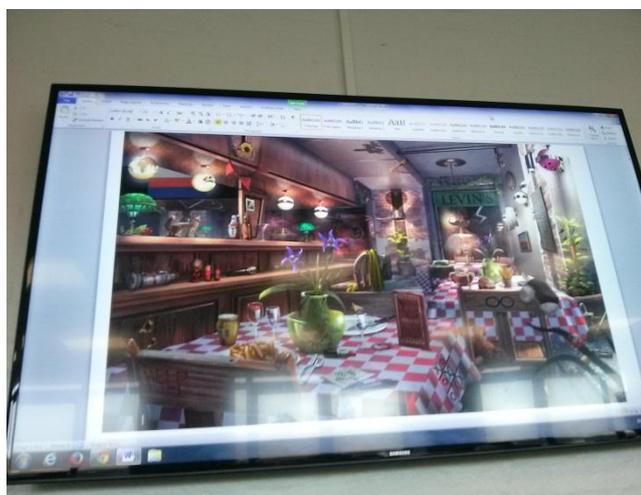


2限： 1, 英語の音楽を聴き、登場人物が何をしているかリスニングして
プリントに書き込む。その後、全員で答え合わせ。

2, Criminal Case という授業をする。

↑

絵に描いてあるペンなどがどこにあるかを英語で説明するというもの。



8月4日（火）

1 限：今週から参加の留学生と合流し、授業開始。

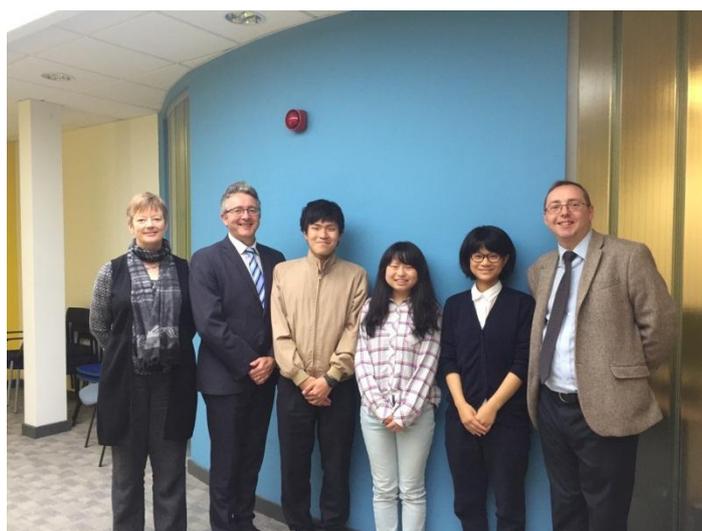
1. 自己紹介をする。
2. 3グループ（各5人）に分かれ、3つの短文を作り、その中から一つだけ嘘の文を作ってそれをほかの人が質問しながら当てるゲームをする。

2 限：先週出された Lip Sync Video の作成時間が与えられる。

11:30~ John Grettan さん(副学長)と Gary Rawnsley さんと Rachael さんと会談。

内容

与謝野町のアベリスツイス大学の入学枠についての説明や3人についてなど。



午後：National Library に行く。(Special Interest)

戦争の時の写真や科学者などの歴史などが展示してあった。→



8月5日（水）

- 1限：1、合計10個ほどのイディオムの意味を与えられるヒントで推測する。
2、すべてのイディオムを理解すると、ジェスチャーのみでイディオムの意味を表現して、誰かが当てるというゲームをする。

2限：Fortune Teller という授業をする。

↑

『占い』という意味。

タロットカードや手相について学び、2人1組のペアでお互いを占う。

午後：18:00～ モナリザ（お店の名前）の Ceredig さんが

アベリスツイス近郊を車で案内して下さる。



ドライブ中、馬に出会い
触れ合うことができた。

→



8月6日(木)

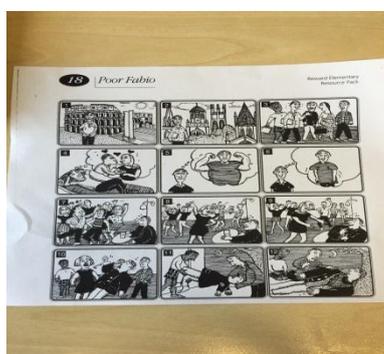
1限：① 2グループ(各5人)に分かれ、各自2枚の写真カードが配られる。
そのカードの写真について、グループのメンバーに当ててもら
うゲームをする。

② Reading 授業

↓

一人の女性プロフィールを見て、その人はどんなパートナーを求めているかな
などを質問に沿って考える。(各自→グループディスカッション→答え合わせ)

③ 1つの絵を見て、
そのストーリーを予測する。
(グループディスカッション) →



休み時間(10:30~11:00)：レイチェル先生(Rachael)と会談。

サマースクールはどうだったか、などを話す。
レイチェル先生には、生活面などたくさん
お世話になり、快適な日々を過ごすことが
できた。感謝の気持ちでいっぱい。 →



2限：Lip sync Video 作成に取り組む。

午後：Old College に行き、
大学の歴史について学ぶ。 →
(Special Interest)



8月7日（金）

1 限：シェイラン先生(Ceylan)の故郷 トルコの文化について説明を聞く。
そして、自分の国のあいさつの仕方や伝統料理を 2 人 1 組で相談しながら英語で記述する。

2 限：Lip Sync Video 鑑賞会&表彰式&修了式

終了後：記念写真撮影



2 週間、共に勉強した仲間達

Thank you!!

サマースクール留学事業で思ったこと、感じたこと

私は、今回の取り組みに参加してアベリスツイスと与謝野町との歴史を知りました。もし、フランク・エバンス氏がおられなかったらこの取り組みも無かったと思うと、与謝野町とアベリスツイスを繋げてくださったフランク・エバンス氏に心から感謝を述べたい気持ちになります。そして、これからもずっとこの交流が続き、より良く発展していくことを強く望みます。

今回、関わったすべての方に感謝して。

平成 27 年 9 月

フランク・エバンス氏と与謝野町（旧加悦町）の歴史

1917 年	ウェールズ ラペンター地域 シャヌーネンで生まれる。
1940 年末	軍務に志願
1941 年初め	海外派遣
1941 年 10 月後半	香港に入港
1941 年 12 月	日本軍の捕虜となる。(香港)
1943 年 12 月	香港から日本へ移送され、 大江山捕虜収容所に向かう。
1944 年 1 月初旬	日本での捕虜生活が始まる。
1945 年 8 月 15 日	終戦
1945 年 11 月	ウェールズに帰国
1981 年 10 月末	香港再訪
1984 年 11 月	第二次世界大戦終結 40 周年記念番組を 制作するためと大江山捕虜収容所で亡く なった僚友たちを偲ぶ慰霊碑の除幕式に 参加するため、日本に来日。 *除幕式後の町長主催レセプションで、 旧加悦町とアベリスツイスの間で贈り物 が交換され、両町が今後新たな友好関係 を築いていくことが提唱される。
現在	定期的な学生交換プログラム（高校生相互 派遣交流等）を中心とした価値ある国際理 解を深め合う機会として受け継がれてい る。 アベリスツイス大学と連携協定を締結

参考文献・資料一覧

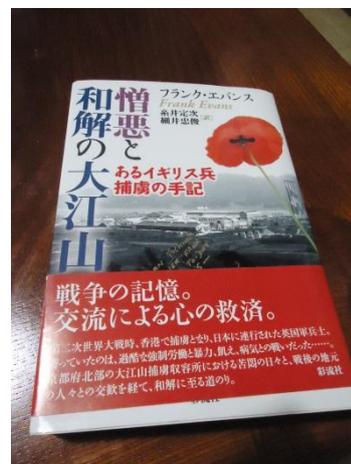
「憎悪と和解の大江山 あるイギリス兵捕虜の手記」

原作:フランク・エバンス(Frank・Evans)

訳:糸井定次、細井忠俊

出版:彩流社

与謝野町ホームページ「アベリスツイスとの交流」



平成27年度
与謝野町アベリスツイス大学
サマースクール留学事業報告書



同志社大学 文化情報学部 坪倉 由里

2015年8月24日(月)～2015年9月4日(金)
アベリスツイス大学サマースクール留学事業報告書

《参加プログラム》

平成27年度アベリスツイス大学サマースクール留学事業

English and Communicative Skills Course at Aberystwyth University

《参加期間》

2015年8月24日(月)～2015年9月4日(金) 12日間

《関係団体》

- 与謝野町
- 与謝野町アベリスツイス友好協会
- アベリスツイス大学 International English Centre

町の風景



アベリスツイス大学 International English Centre

《授業》

私が参加したクラスは、大学内の I B E R S という建物で授業が行われる。

月曜日から木曜日は1日（9時から14時まで）、金曜日は午前（9時から12時30分まで）の授業だった。午前中2講は90分、午後1講は定められた時間はなく終わり次第終了。30分の休憩と1時間30分のお昼休みが設けられていた。

午前中の授業は、主に文法。文法用語など少し専門的な用語も英語なため難しさは感じたものの、内容的にはすでに高校までに履修したものが多かったためスムーズについていくことができた。授業中の日本語禁止、電子辞書禁止でわからない単語や表現などがあれば、手を挙げて質問するという形式であったため、英語力の向上に繋がったように感じる。

午後の授業は、映画を見て映画のセクションごとにクイズに答えたり感想を書いたり、最終日にクラスごとに発表するムービーを製作したり、町に出かけたりした。

私のクラスは日本人12人、サウジアラビア人1人、スペイン人1人の14人。担任の先生はイギリス出身で、スペインに12年間在住している男性。12人も日本人がいるとどうしても日本語で喋ってしまう。せっかくの機会なので、グループ活動でもサウジアラビア、スペイン人と話すことを心がけた。

スペインのセルジオは同い年でジョーク好き。気さくで話しやすかった。サウジアラビアのガーリアは30歳、1児の母、年齢も生活スタイルも違うが、私が現在大学で勉強しているデータサイエンスをガーリアは仕事で生かしているという繋がりがあり仲良くなった。

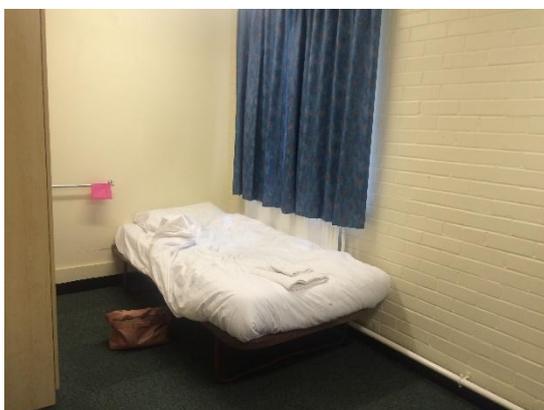


《寮》

すべてで約15棟の同じような建物が寮として、大学構内にある。それぞれにアルファベットがつけられており、私は、「K」の建物で過ごした。

ひとり一部屋で、各部屋には、シングルベッド、洗面台、クローゼット、勉強机（手元電球付き）、ゴミ箱があった。シーツとバスタオルは週に1回、知らないうちに新しいものが廊下におかれる。

共同キッチン、シャワー室（2つ）、お手洗い（2つ）は同じフロア8人で使用する。キッチンは広く、冷蔵庫も大きいので、不便を感じることは一度もなかった。シャワー室には脱衣場がなく、ドアの内側にフックがあるだけだったため、あらかじめ着替えて行き、シャワー室を利用した。



《食事》

朝食と夕食は共同キッチンで作り、昼食は教室の隣のカフェか大学内のレストランで食べた



←安い！と思いパスタを買ったものの思いのほか減らせず、パスタづけの日々（笑）。味付けには持っていったふりかけが役立った。レストランはメイン1つサイド2つサラダで£5（5ポンド≒950円）ほど。教室横のカフェはパニーニが大人気だった。

物価は、高い！と感じた。

《出会った人々》



：キャロラインさん

与謝野町アベリスツイス友好協会の方でペングライス高校で家庭科の先生をしておられる。与謝野町に来られたこともあり、昨年私たちがアベリスツイスを訪れたときも大変お世話になった。

授業で Machynlleth へ行ったとき、近くに住んでおられるとのことで、会いに来てくださった。



左：ゲリーさん 右：レイチェルさん

2人とも International English Centre の運営に携わっておられ、与謝野町の事を気にかけてくださり、協定を推進してくださっている。授業の間の30分しか時間がとれなかったため、沢山はお話しできなかったが、これからアベリスツイスと世界の繋がりを大きくしていきたいと言っておられた。



：ハンナ、ハンナの家族、メガン、ベサン、ヘイルウェン

ハンナのステップファザーがご馳走を作ってくれた高校生交流事業で 2013 年与謝野町を訪問し、2014 年に私がアベリスツイスを訪問した時受け入れをしてくれた友人達。特にハンナは 2013 年私の家族がハンナを受け入れ、2014 年は私がハンナの家族にお世話になった。みんなで大学の話や生活の話などした。別の日にはショッピングにもこのメンバーで出かけた。(ハンナの家にて)



：アレックス

ハンナたちと同じく 2013 年に与謝野町を訪問し、2014 年に受け入れを行ってくれた友人。町で彼女とデート中を偶然発見。会う予定もなく、お互いに会えてビックリ。その場で沢山話せた。与謝野町のことを気にかけてくれていた。



：ポール先生（クラス担任）

イギリス出身スペイン在住。このサマースクールで英語を教えるため、一時帰国されていた。

アメリカンイングリッシュとイングリッシュイングリッシュの違いを細かく説明してくださった。冗談でみんなを盛り上げてくれた。



：International English Centre のスタッフ

私たちのサマースクールが円滑に行われるようサポートしてくださった。

特に左から3番目のヘレンさんは私がこのサマースクールに参加すると決めてから、メールをくださったり、書類を見てくださったり、早い段階から関わりを持ち、親しく迎えていただいた。



：福岡の西南学院大学の友達

サマースクール参加のため、総勢23人が1ヶ月間プログラムに参加していた。大学の短期留学プログラムはいくつもあるらしいがイギリス志願の学生は毎年アベリスツイス大学に来るとのこと。寮も同じ、初めて会った時から歓迎してくれ、2週間で本当に仲良くなった。与謝野町について、アベリスツイスとの関係についても紹介できた。



：ケレディグさん（議員さん）

：奥様のベスさん

友好協会の会員さんで、与謝野町との縁の深いご夫妻。

（奥様経営のお土産店にて）

《留学を終えて》

アベリスツイスを訪れるのは初めてではなかった。

町の高校生相互派遣交流事業でアベリスツイスを訪れて1年。

アベリスツイスの高校生ハンナを与謝野町の我が家に迎えて2年。

与謝野町（旧加悦町）とアベリスツイスの関係を知り、いつか行ってみたい。
と漠然とした思いを抱いて10年。

2度目のアベリスツイス訪問となった。

今回は、大学の試験等日程の都合で、アベリスツイス大学インターナショナルイングリッシュセンターが行うサマースクールのうち、最終のコースに参加できることとなった。与謝野町の新しい取り組み。昨年、町長と一緒にこの町を訪ねた際、高校生の6人全員で、留学制度を作って欲しい！と直接町長に伝えたが、その一歩として早くも新しい事業の実現に至ったことが嬉しかった。

今回は、私一人だ。一ヶ月前にアベリスツイス大学で2週間を過ごされた方々にはお会いできないままだったことが気がかりであったが、昨年一緒に行った6人全員の思い、高校生との約束を果たしてくださった町長や役場の担当の方々の思いを背負うつもりで出発した。

乗り継ぎの、ドバイでハプニングが起きた。海外で絶対になくしてはいけないといわれるパスポートとeチケット、私は、往復の飛行機と列車のeチケット、バーミンガム空港から列車への乗り継ぎ方法や旅程を確認するための印刷物すべてを機内に置いたままであったことに気付いたが、遅かった。清掃を済ましていない機内の忘れ物を、乗り換えのためドバイ空港に滞在している間に確認することは難しいとのこと。緊張感が足りなかったのだ。私は、航空会社の連絡先のメモを手にも、無くした書類のことを考えながら先を急いだ。（無くしたeチケットを航空会社で探していただき届けていただくことが難しかったため、結局両親に話し、実家で保管していたコピーを急ぎEMSで届けてもらった。反省！）

バーミンガムから列車でアベリスツイスに到着し、駅から徒歩で大学をめざした。道はなんとか覚えていたが、荷物が重い！通りすぎりのアベリスツイスの方々に心配されながらも無事、大学の寮にたどり着いた。たくさんの留学生がいると思っていた寮には誰もいなかった。電波の状態もあまりよくなく、連絡をとることもできない。あたりは暗くなってきた。eチケットをなくし、一人で心細い時間を過ごした。が、すぐに同じ寮で2週間を過ごしている九州の大学生の団体が寮に戻って来て、不安ではじまった私の2度目のアベリスツイス滞在が始まった。

今回は、英語のスキルアップを目的とした渡英である。

とにかく日本人が多く、日本語が聞こえてくるのが少し不満に思えたりもしたが、九州福岡の西南学院大学から団体で来ているみんなとは、とても仲良くなれたし、与謝野町の紹介、町とアベリスツイスとの関係の説明もできてよかったのかもしれない。

一年ぶりにホストシスターのハンナに会えた。

高校生交流事業で与謝野町に来たみんなにも会え、ハンナの運転でドライブし、ハンナの両親には、集まったみんなに手料理をご馳走していただいた。よく戻ってきたね。と暖かく迎えられ、アベリスツイスの方々の優しさが身に沁みだ。

授業の一環として、隣町の Machynlleth という市場へ出かけたときは、与謝野町アベリスツイス友好協会のキャロラインさんが、どこかで聞きつけてくださり、「YURI はどこ～？ YURI～？」と探して会いに来てくださり、再会できた。アベリスツイスのお土産店のオーナー夫妻も、ずっと以前お子さんが与謝野町（加悦町）に来られたことがご縁で、以来ずっと友好協会の活動に携わっておられ、お店を訪ねた際、覚えていてくださり親しく接して下さった。

交流の歴史に感謝し、つながりに感謝し、今度は私がつないでいかなければという思いを強くした。今回の目的は英語のスキルアップであったが、交流の起源は常に意識している。フランク・エバンスさんが若者に託された平和への思いを正しく受け止め、ふたつの町の友好関係が続いたことに感謝しながら、ふるさと与謝野町とアベリスツイスの更なる交流、更なる挑戦を受け継ぎたい。

昨年、私は、自らを知ってもらうことの難しさを痛感した。

昨年のアベリスツイス訪問の後、大学入試等も経験し、自分自身について見詰め、将来について考え、少しは自分を伝えることができるようになっていたのではないかと思っていたが、やはり今回も同じ事を感じた。

同志社大学のこと、学部のこと、夢は？将来どうなりたいの？ほかではない自分自身について尋ねられているのに、やはり、曖昧で明確に答えられない自分に気づき、愕然とした。知らないことは伝えられない。伝えられないとわかってもらえない。交流以前の問題である。

私は、与謝野町のアベリスツイスに関わる活動の中から、「平和」を尊く思うことを学んだ。平和な世界の実現のため、悲しみ苦しんでいる誰かを笑顔にできるような人になるため、具体的な目標を立て、学習を、交流を、挑戦を続けていきたい。お世話になった多くの方に恩返しをしたい。

貴重な経験をさせていただきました。お会いできた方、関わってくださったすべての方に感謝します。ありがとうございました。

報告書

企画財政課 永井 大地

目次

- (1) はじめに
- (2) 日程
- (3) 大学施設
- (4) アベリスツイス大学サマースクール概要
- (5) 日報（7月24日（金）～8月9日（日））
- (6) おわりに

(1) はじめに

このアベリスツイス大学サマースクール留学事業は、2015年2月にアベリスツイス大学と包括連携協定を締結したことで実現した事業です。この事業が実現したのも、旧加悦町とフランク・エバンスさんとの交流から始まった与謝野町とアベリスツイスとの交流の成果であると思います。私がこの事業の随行職員を希望した理由は大きく2つありました。ひとつ目は、本事業に参加して日本で生活していただけではわからなかった何かを感じたい、経験したいと思ったこと、さらにその感じたこと、経験したことを海外留学に興味を持った町民の方々へ伝えていきたいと思ったからです。ふたつ目は、英語力の向上です。これまでとは全く違う環境で英語を勉強してみたいと思い、私自身「日本を訪れている外国人観光客が困っている際に自分から声をかけられる」くらいの英語力、自信をつけたいという目標を持っていました。

また随行職員として、サマースクール留学生を無事アベリスツイスへ連れて行き、日本に帰国させることは最低限の責務でした。本事業が今年度からの実施ということもあり、サマースクールの詳細についてもわからない状況であったので、内容やレベルを把握する必要もありました。

以上の町職員としての責務と個人的な思いを抱いて、私はサマースクールに参加しました。

(2) 日程

【日程】

日付	行程
7月24日(金)	与謝野町 → 関西国際空港 → ドバイ国際空港
7月25日(土)	ドバイ空港 → バーミンガム空港 → アベリスツイス大学(入寮)
7月26日(日)	フリー
7月27日(月) ～	サマースクール(CS3コース)
8月7日(金)	
8月8日(土)	アベリスツイス大学 → バーミンガム空港 → ドバイ空港
8月9日(日)	ドバイ空港 → 関西国際空港 → 与謝野町

【交通手段】

- ・与謝野町～関西国際空港：公用車（谷口主幹、小谷係長、渡邊主任による送迎）
- ・関西国際空港～ドバイ空港～バーミンガム空港：航空機
- ・バーミンガム空港～アベリスツイス：鉄道

※8月2日(日)・・・与謝野町アベリスツイス友好協会の Caroline 氏、Jake 氏と面会

8月4日(火)・・・アベリスツイス大学副学長 Grattan 氏、Gary 氏と面会

8月5日(水)・・・与謝野町アベリスツイス友好協会の Ceredig 氏と面会

(3) 大学施設

・Campus Reception (受付)

Campus Reception は校門を入ったすぐのところにあります。この場所でサマースクール参加者は受付を行い、書類や学生寮の鍵が配布されます。サマースクールが始まってからも、集合場所として多く利用された場所でした。



【Campus Reception】

・アベリスツイス大学学生寮

学生寮は大学構内にあり、1部屋6畳ほどの広さで、ベッド、机、椅子と洗面台が備わっていました。トイレとシャワーは1フロア（1フロア10部屋前後）の学生で共同利用でした。バスタオルとシーツは1部屋に1つつ支給されていて、毎週水曜日に新しいものが支給されました。

キッチンも1フロアの学生で共同利用し、調理器具とお皿などは備わっていました。



【学生寮】

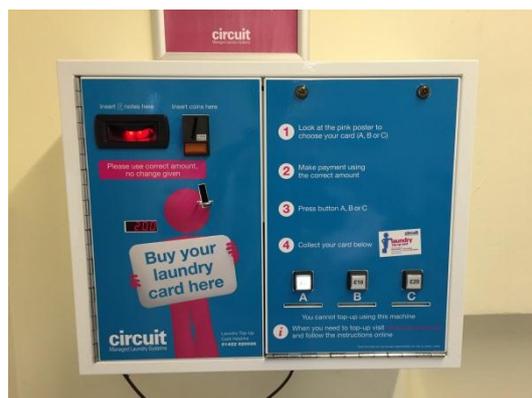


【キッチン】

ランドリーは学生寮の近くいくつかあり、現金ではなくプリペイドカードを使用するシステムでした。プリペイドカードはランドリーの建物内で購入できます。洗濯機は1回あたり2.2ポンド、乾燥機は1ポンド必要でした。洗剤は建物内では販売していませんでした。



【ランドリー】



【プリペイドカード販売機】

また、大学内には3~4つほどカフェ、レストランがありました。昼食は主に大学内のレストランに行っていましたが、1食あたり4~5ポンド必要でした。

(4) アベリスツイス大学サマースクール概要

私たちが参加した CS3 コース (English and Communicative Skills Course) は、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指すプログラムで、教室での少人数 (最大 16 人) による授業に加えキャンパス外での社会的プログラム (後述の Special Interest および Social Program) も含まれており、英国内でも高い評価を受けている講座です。

コースの主な目的は、受講者がより自信を持って英語を話せるようになることであり、以下の項目に焦点を当てたプログラムが実施されます。

- ・話す力、聞く力の発達
- ・語彙力をつける
- ・発音やイントネーションの改善
- ・文法的な正確さの向上
- ・流暢さと自信の強化
- ・読み書きの向上
- ・独立した学習ができるようにする

社会的プログラムの Special Interest および Social Program は毎年内容が変わりますが、今年以下の内容でした。

【Special Interest】

- ・映画などの撮影技術を学ぶコース
- ・アベリスツイスの歴史を学ぶコース
- ・料理コース

これらから各自最も興味のある分野を選択し、火曜日と木曜日の午後から授業が行われます。

【Social Program】

水曜日の午後、土曜日に行われるプログラムで以下の場所に行き、主に自由行動で観光などを行います。

(水曜日)

- ・ King Artbur's Labyrintb (キングアーサーラビリンス)
- ・動物園

(土曜日)

- ・カーディフ (ウェールズの首都)

・タイムテーブル

【タイムテーブル】

	9:00~10:30	休憩	11:00~12:30	昼食	14:00~16:30
月	教室での授業		教室での授業		フリー
火					Special Interest
水					Social Program
木					Special Interest
金					フリー
土	Social Program (1日)				
日	フリー				

午前中に1時間30分の授業を2コマ受けます。午前中の授業は、主に英語によるコミュニケーション能力を向上させるためのもので、グループディスカッションによって進めていくプログラムが多かったです。午後からは曜日によってプログラムが異なります。グループワークが課されることがあったので、フリーの時間を使って取り組みました。

Timetable: General English: Summer 2015
CS3 Week 2 3-7 August 2015

	9.00 - 10.30	11.00 - 12.30	2.00 - 4.30	Homework
Monday	Blue, Gosta - IBERS 0.31 Red, Paul - IBERS 0.32 Green, Ceylan - R20 Llandinam Yellow, Clare - B21b Hugh Owen • Weekend round-up/Journal Writing/Reading • Integrated skills activities • New students induction & placement tests • Early Bird feedback forms 12.25-12.31	Blue, Gosta - IBERS 0.31 Red, Paul - IBERS 0.32 Green, Ceylan - R20 Llandinam Yellow, Clare - B21b Hugh Owen • Integrated skills activities • D4 special interest choices • New students induction & placement tests	New students campus tour and Language Lab induction	Welcome Evening Student Union Karaoke, Fun & Games - meet Team at Campus Reception 6.30 or Student Union 7pm
Tuesday	Blue, Paul - IBERS 0.31 Red, Ceylan - IBERS 0.32 Green, Gosta - R20 Llandinam Yellow, Clare - B21b Hugh Owen • Skills Work	Blue, Paul - IBERS 0.31 Red, Ceylan - IBERS 0.32 Green, Gosta - R20 Llandinam Yellow, Clare - B21b Hugh Owen • Integrated skills activities • Project presentation work	IBERS 0.31 IBERS 0.32 R20 Llandinam; Barb Hugh Owen Special Interest Class	
Wednesday	Blue, Gosta - IBERS 0.31 Red, Paul - IBERS 0.32 Green, Ceylan - R20 Llandinam Yellow, Clare - B21b Hugh Owen • Skills Work	BREAK	TRIP Cardigan Farm Meet - Campus Reception 1.20	
Thursday	Blue, Paul - IBERS 0.31 Red, Ceylan - IBERS 0.32 Green, Gosta - R20 Llandinam Yellow, Clare - B21b Hugh Owen • Skills Work	Blue, Paul - IBERS 0.31 Red, Ceylan - IBERS 0.32 Green, Gosta - R20 Llandinam Yellow, Clare - B21b Hugh Owen • Integrated skills activities • Project presentation work • Final of course feedback 18.52-19.30	IBERS 0.31 IBERS 0.32 R20 Llandinam; Barb Hugh Owen Special Interest Class	Social Evening BBQ on the beach (if the weather's had them Pura on the Pier)
Friday	Blue, Gosta - IBERS 0.31 Red, Paul - IBERS 0.32 Green, Ceylan - R20 Llandinam Yellow, Clare - B21b Hugh Owen • Integrated skills activities	Blue, Gosta Red, Paul Green, Ceylan - Yellow, Clare - all classes in D4 Hugh Owen • Presentation/info share		

Saturday Trip: Liverpool - home of The Beatles & Liverpool FC

English Teachers: Gosta mariz; Maggie smd; Ceylan osh@aber.ac.uk Paul pa33@aber.ac.uk
Clare
Course Coordinator: Jan Hulan
Administrative staff: Helen Hayes: hhh@aber.ac.uk Shelley Fulwood: smf@aber.ac.uk

Notes:

- This timetable is a guide only. Your teacher may need to change the structure to suit your needs.
- Have a great time on the social program this week.
- Remember to collect info for your journals during the week, especially from your trips.
- Remember to read a little every day and change your book when you've finished.

【タイムテーブル】

(5) 日報

○7月24日(金)

【内容】

- ・移動(与謝野町役場本庁舎～関西国際空港)

17時15分からアベリスツイス大学サマースクール留学事業参加者3名が町長と面会しました。与謝野町アベリスツイス友好協会の糸井さんも同席され、与謝野町とアベリスツイスとの交流、各自の留学事業への思いなどを改めて確認しました。小谷さん、谷口さんと関西国際空港に向け、17時30分に本庁舎を出発しました。21時30分には関西国際空港に到着し、航空チケットの発券、ポンドへの両替(1ポンド=203円)を済ませ搭乗ゲートへ向かいました。23時40分発の飛行機(便名EK317)に搭乗し、乗り継ぎ先のドバイへ向けて出発しました。(関空～ドバイ 約10時間)



【関西国際空港から出発】



【機内食】



【ドバイ空港にて乗り換え】

○7月25日(土)

【内容】

- ・移動(ドバイ空港～バーミンガム空港～アベリスツイス大学)
- ・アベリスツイス大学学生寮へ入寮

ドバイ時間の午前4時50分(日本時間午前9時50分)にドバイ空港に到着しました。電子掲示板で、乗り継ぎの飛行機(7時50分発EK039)の搭乗ゲートを確認し、Connection Gateでセキュリティチェックを受けた後、モノレールで空港内を移動しました。5時30分には搭乗ゲート前に到着し、空港のフリーWi-Fi(DBX FREE Wi-Fi)を利用し、小谷さんへ経過報告をしました。フリーWi-Fiは60分間無料で使用できました。スマートフォンは常に機内モード、モバイルデータ通信をオフにし、フリーWi-Fiのみで通信を行いました。搭乗までの間に、和田さんと一色さんに入国カードの書き方を説明し、機内へ搭乗後、入国カードがすぐ配られたので各自記入を行いました。イギリス時間の12時50分(日本時間20時50分)にイギリスバーミンガム空港へ無事到着し、入国審査へ向かいました。審査待ちの外国人が多く1時間30分ほど待ち、審査を受けました。3人まとめて審査を受け

させていただき、「入国の目的」、「どこへ行くのか」、「どのくらい滞在するのか」を質問され、答えた後に大学からのオファーレターを見せたことでスムーズに入国審査を終えることができました。その後、各自預けていた荷物を受け取り、モノレールに乗り **Birmingham International** 駅へ移動しました。14 時頃に鉄道チケットを発売してもらうため駅の窓口に行くのと、自動発券機で発券するように言われ、**Birmingham International** 駅～**Aberystwyth** 駅の往復分のチケットを発売することができました。発券の際には、機械を起動させるためにクレジットカードを挿入する必要がありましたが、私のクレジットカード（JCB カード）では認証されず、一色さんのクレジットカード（Visa カード）を使用し、起動させることができました。機械の説明を見たところ、Visa、Master、Maestro が利用可能で JCB は利用範囲外でした。近くのカフェでフリーWi-Fi が使用できたのでそこで小谷さんに経過報告をし、16 時 9 分のアベリスツイス行きの列車に乗車し、アベリスツイスには 19 時 15 分に到着しました。

アベリスツイス駅に到着後、駅前のタクシー乗り場からアベリスツイス大学の **Campus Reception** までタクシーを利用しました。駅から大学までは 4 ポンドから 4.5 ポンドほどでした。**Campus Reception** で書類の入った封筒と学生寮の鍵を受け取り、その後学生寮に移動しました。封筒の中には Wi-Fi の接続方法についての書類も同封されており、入寮後すぐに利用できました。寮に到着した後、和田さんが体調を崩したため、薬を扱っているお店を調べて買いに行き、薬で少し様子をみることにしました。幸い、大事には至らず、次の日には和田さんの体調は戻っていました。



【入国審査】

(バーミンガム空港にて)



【鉄道チケット販売機】



【鉄道チケット】



【アベリスツイス大学】

○7月26日（日）

【内容】

- ・フリー（アベリスツイス観光）

サマースクールは27日から始まるので、この日は10時30分ごろから3人でアベリスツイスの街へ出てみました。3人とも前日の疲れが残っていたので、14時には寮に戻り、封筒内の書類に目を通しました。



【アベリスツイス】

○7月27日（月）【サマースクール1日目】

8時45分に和田さん、一色さんと Campus Reception へ向かい、サマースクールの事務局である International English Centre (IEC) のシェリーと合流し各自受付を行いました。サマースクール参加者は50人程でしたが、そのうち私たちが参加したCS3コースの参加者は25人前後で中国人の割合が高く、他にイタリア、フランス、スペイン人がいました。他に2つのコース (Pre-Sessional Course、Teacher Development Course) があり、そこにはサウジアラビア、カザフスタンからの参加者もいました。いずれのコースにも日本人は自分たち以外いませんでした。

初日はオリエンテーションが主なスケジュールでした。はじめに、小さなホールに案内されIECスタッフのHelenからスライド（パワーポイント）でサマースクールのスタッフの紹介や大学での注意事項など説明を受けました。そ



【Helenと面会】



【オリエンテーション会場】

の後、Social Program の概要について説明を受け、今回は 29 日（水）の午後から King Artbur's Labyrinth（キングアーサーラビリンス）へ行き、8月1日（土）には1日使ってウェールズの首都 Cardiff へ行くということでした。説明はもちろん英語ですが、まだまだ聞き取れないところが多く非常に苦戦しました。

その後、参加するコースごと（CS3、Pre-Sessional Course、Teacher Development Course）に別の部屋に案内され、それぞれ説明を受けました。私たちの CS3 コースはコース責任者である Jan が説明を行い、CS3 コースを 3 グループに分けるために簡単な文法問題の穴埋めテストと、3つの質問に対して記述式で答えるテスト（この大学で何が学びたいか、去年の夏は何をしていたか、自分の住んでいるところはどういったところか）を行いました。内容は高校英語のレベルで答えられるテストであると感じました。テストが終わると、Special interest という授業について説明を受けました。Special interest の内容は、映画などの撮影技術について学ぶコースとアベリスツイスの街を散策し歴史を学ぶコース、料理を行うコースがあり 1つのコースを各自選択し、2週間で4回参加するというものでした。私たち3人は、アベリスツイスの歴史を学ぶコースを選択しました。

その後、私たちは5グループ（5人×5）に分かれ、簡単なテーマ（どこから来たか、何歳かなど）について会話をする時間が与えられ、私は同じグループだった中国人の大学生チェンと話をしました。

午後からは、CS3 コース生は Campus Reception に集合し、シェリーの案内で大学の施設（International English Centre (IEC) や Sports Centre、Art Centre、Library）を見学しました。Library に行った際に、学生証を作成するための手続きを行いました。学生証（プリペイド機能付きでした）は、大学の施設に入るときにカードキーとして使ったり、コピー機を使用する際に必要でした。コピー機は、日本の大学のように無料で使えるものではなく、一枚ごとに料金が発生するシステムでした。

その後、IEC にあるパソコンルームで、パソコンへのログインの方法や英単語の発音の練習に使用するパソコン内のアプリケーションの利用方法の説明を受けました。留学生全員にそれぞれ ID、パスワード、専用メールアドレスが配布され、メールは随時チェックをするよう説明がありました。

18時30分からは、大学構内にある Bar でカラオケやゲームを行う歓迎会を開催すると聞いていたので参加し、サマースクール参加者と交流を深めました。



【Libraryにて】



【歓迎会にて】



○7月28日(火)【サマースクール2日目】

8時50分に Reception に集合し、前日に受けたテストにより CS3 コースが3グループに分けられました。私たち3人は同じグループになり、全員で14人のクラスでした。

教室に移動し、私たちの先生である Ceylan (ジェイラン) の自己紹介がありました。28歳でトルコの Antalya (アンタルヤ) 出身の女性でした。クラスのメンバーは、中国人4人、韓国人5人、スペイン人1人、サウジアラビア人1人、私たち3人でした。Ceylan の自己紹介が終わると、できるだけ毎日 Diary を書くように指示がありました。そして、日記の表紙を4つの領域に分け、それぞれに自分の好きな場所や大切にしているものなどを描き、自分が好きなようにデザインをする授業を行いました。私は日本地図、天橋立、宮島と漢字で「与謝野」とデザインしました。表紙のデザインが終わると、その日記に6つのテーマについて記述するように説明され、自分で英語の文章を考え記述しました。テーマは以下の内容でした。

- ・ 3 things you enjoy doing (あなたの好きなこと3つは何か)
- ・ 3 persons that are important to you (あなたにとって3人の大切な人)
- ・ 3 places you would like to go to (あなたが行きたいところを3つ挙げるとしたら)
- ・ 3 things you did last weekend (あなたが先週行った3つのこと)
- ・ 3 things which are important to you (あなたが大切にしている3つのこと)
- ・ films/books/TV programs you like (あなたが好きな映画、本、テレビ番組について)

午後からは社会的プログラムのひとつである Special interest の授業でした。私はアベリスツイスの歴史を学ぶコースを選択していたので、この日は Ceredigion Museum (ケレディゴンと読みます) に行きました。参加者は10人程で、コース(CS3、Pre-Sessional Course、Teacher Development Course)は関係なくみんなが参加するのでスペイン人、フランス人、イタリア人もいました。この Museum にはアベリスツイスが位置するケレディゴン地方で使用されていた陶器や椅子、機織り機などが展示してあり、日本の郷土資料館のようなところでした。授業の内容は、Museum で最も印象に残ったものを写真に撮り、後でカフェに行き参加者で撮影した写真について会話をするというものでした。

Special Interest 終了後に、中国人の留学生3人とアベリスツイスを観光しました。彼らは大学生で私たちと同じ CS3 コースに参加していました。住んでいる学生寮も同じ建物内だったということもあり、この日の夕食に招待していただきました。彼らは生徒6人、先生1人(随行)でサマースクールに参加しており、みんなからおもてなしを受けました。



【教室風景】



【Ceredigion Museumにて】



【中国人留学生によるおもてなし】

○7月29日（水）【サマースクール3日目】

9時から午前中の授業が始まり、先生は **Ceylan** でした。はじめに、クラス全員に向けて自己紹介を行いました。とはいっても、自分の紹介ではなく隣に座っている人を紹介する形式のものでした。内容は、**Diary** の表紙に書いた4つの情報についての紹介や、前日6つのテーマについて書いたこと（好きなこと、大切な人、行きたい場所など）を紹介しました。私はサウジアラビア人のガヤという女性を紹介し、私の紹介は韓国人のアシェリーという女性が行ってくれました。

次に、**JigsawReading** という授業を行いました。**JigsawReading** とは、A4用紙一枚分ほどの長さの英文を5段落に分割したものが1セットずつ各グループに配布され、各グループで協力して1つの文章として意味が通じるように並び替えるというもので、グループで答えを出した後に、クラスで答え合わせを行う形式でした。この授業は **Reading** の能力を向上させることを目的にしていると感じました。最後に、完成した文章の中でわからない単語を生徒が次々と挙げていき、その単語の意味についてクラス全体で推論を行いました。ここでは11個の単語が挙げられ、各自思ったことをその場で発言していき答えを見つけていく形式でした。すべての単語の意味が分かったところで、その単語を使って短い文章を作る課題が出ました。（11個単語があったので、11個の文を作りました。）ここで1限目が終了しました。

2限目は、**Poem**（詩）について勉強しました。内容は、先生が用意したひとつの **Poem** を題材にして、それを読んでいき一つひとつの文章について意味を掘り下げていくものでした。ここでは、“**Love**” についてどんな要素が含まれているかななどをクラス全体で考え、思ったことを発言していくといった形式で、考える内容は少し哲学的な部分がありました。その作業が終わると、大学内にある **Art Centre** に場所を移し、展示されてある陶器を見に行きました。そして、その作品の中から印象的なものを一つ選び、その作品について **Poem** を作成するという課題が出ました。

午後からは、13時20分に **Campus Reception** 前に集合し、もうひとつの社会的プログラムである **Social Program** を行いました。社会学習のようなプログラムで留学生20人程が参加し、この日はアベリスツイスから北へバスで50分ほど行ったところにある **King**

Artbur's Labyrinth (キングアーサーラビリンス)に行きました。ここは洞窟探索のようなアドベンチャー施設で洞窟の中を案内人によって誘導され、1時間ほど探索しました。



【King Artbur's Labyrinth にて】

○7月30日(木)【サマースクール4日目】

9時から午前中の授業が始まり、この日は Gosia という女性が先生でした。はじめに、2グループ(5人×2)に分かれてボードゲームを行いました。私のグループは韓国女性2人(アシェリーとエリー)と和田さん、一色さんの5人でした。ボードゲームの内容は、それぞれのマスに料理や食材についての質問が書いてあり、サイコロを振って止まったマスにある質問について英語で文章を作り口頭で答えるというものでした。質問内容は、**What is the favorite dessert?**や**Do you prefer tea or coffee?**などの簡単なものでした。また、**Cooking Verb**というマスに止まると、調理法に関する動詞(**boil**、**grill**、**sprinkle**など)を使って文章を作り答えました。例えば、**boil**(茹でる)という動詞であれば、**I boil water**、**sprinkle**(ふりかける)であれば、**I sprinkle cheese on the pizza**.のように文章を考え答えました。この授業は主に **Speaking** の能力の向上を意識しているように感じました。



【ボードゲーム】



【授業風景】

次に、イギリスのコマーシャル(バター)を見て、そこに出てくる食材(野菜や果物など)を書きだしていくという授業を行いました。1分ほどのCMに食材が次々と出てくるもので、合計25品目ほどありました。初めは自分だけで行い、その後クラス全体でCMに出てきたと思う食材を発言し答え合わせを行う形式でした。同様にして、同じCMの中で食材を調理している調理法(**cut**や**scrub**(泡立てる)など)を書きだしていきました。その後、出てきた食材や調理法を参考に、自分の好きなレシピについて英語で記述する課題を行いました。この授業は、語彙力(野菜と調理法について)と **Writing** の能力の向上を意識しているように感じました。

2限目は、1週間かけて行う課題が発表され、クラスを2グループ(7人×2)に分けました。なるべく多国籍になるように分けられ、私のグループは韓国人が3人、中国人が1人、スペイン人が1人、サウジアラビア人が1人の7人になりました。課題の内容は、**Lip Sync Video**という動画を作成することでした。**Lip Sync Video**とは、好きな曲に合わせて踊ったりパフォーマンスを行って、それを撮影するものです。実際にその曲を歌うことは

なく、歌っていうように見せながら様々なパフォーマンスを行います。この日の授業では、題材となる1曲を選ぶことから始め、グループ内で役割分担（director など）、どのようなシーンを撮影するかなどを考えました。曲は英語の歌詞であることがルールでした。相談した結果、Maroon5 という歌手の Sugar という曲に決定しました。役割は特に決めず、全員で協力して撮影を行うことにしました。この Lip Sync Video の課題はサマースクール参加者全員に課されたもので、サマースクール最終日（8月7日（金））に発表を行うものでした。

午後からは Special interest でアベリスツイスにある Constitution Hill に行きました。Constitution Hill はアベリスツイスの海岸沿いにある大きな丘で、登りは Cliff Railway（急勾配の坂道に作られた鉄道）という乗り物を利用しました。丘からの景色は、アベリスツイスが一望でき素晴らしい眺めでした。特に課題などは与えられることはなく、各自で自由に散策するプログラムになっていました。



【Cliff Railway】



【Constitution Hillにて】



16 時頃に Special interest が終わったので、和田さんと一色さんと与謝野町アベリスツイス友好協会の Ceredig さんに会うために「モナリザ」というアベリスツイスのお土産屋さんに行きました。私たちは与謝野町から来て、アベリスツイス大学のサマースクールに参加していることを説明すると、Ceredig さんに 8 月 3 日（月）か 4 日（火）の夕方からアベリスツイス近郊を車で案内して頂けることになったので、その日に 3 人で伺うと約束しました。



【モナリザにて Ceredig さんと面会】

○7月31日（金）【サマースクール5日目】

9時から午前中のプログラムが始まり、先生は Ceylan と Jan でした。Jan は私たちが参加している CS3 コースの責任者です。はじめに、伝言ゲームを行いました。2人1組になり、教室の壁に貼られたいくつかの文章（二行ほどの短文）を一人が見にいき、暗記した文章を口頭でパートナーに伝えます。パートナーは聞いた文章を書き出します。私は韓国人のエリックという男性がパートナーでした。このプログラムは、覚えたことを正確に伝えることに加えて、発音を意識することが重要でした。知っている単語でも発音によって聞き取れない、聞き取ってもらえないことが多く苦戦しました。



【壁に貼られた暗記文章】

出身国によって、同じ単語でも微妙に発音が異なってしまうということを実感しました。

その後、火曜日に考えた6つのテーマ（好きなこと、大切な人、行きたい場所など）の中から改めて1つのテーマを選択し、そのことについてより詳細に記述を行うという授業を行いました。私は、**3 persons that are important to me** を選択し、3人の大切な人について詳細な内容を書きました。この授業は **Writing** の能力の向上を意識していると感じました。ここまでが1限の内容です。（Jan は1限までの参加でした。）

2限は、**ART project** という授業を行いました。はじめに、グループ分けを行い3人1組で4グループに分かれました。私のグループは韓国人のアシェリーとサウジアラビア人のギャの3人でした。その後、Ceylan が有名な絵を10作品紹介し、各グループで10作品の絵の値段を推測し、値段の高いものからランク付けするという授業を行いました。

それが終わると、グループ単位で行う課題が出ました。内容は、自分が選んだアーティスト（歌手、俳優、画家など）を紹介するためのポスターを各グループで作成するというものでした。アーティストの選び方には条件があり、世界の地域（アジア、アフリカ、オセアニア、北アメリカ、南アメリカ）からグループごとに1つの地域が割り当てられ、その地域出身のアーティストしか選択することができないというものでした。グループ内で、メンバーそれぞれが1人のアーティストを選択するので、同じポスターに3人のアーティストの情報が含まれることになります。

金曜日は午前中みのプログラムでした。

○8月1日（土）【サマースクール6日目】

この日は **Social Program** でウェールズの首都であるカーディフに行きました。参加者は多く40人程いました。

朝7時45分に **Campus Reception** に集合し、IECのスタッフである Tom が手配してくれた大型バスでカーディフへ向かいました。アベリスツイスから3時間でカーディフに到着し、11時から16時45分まで観光の時間が与えられました。はじめに、私たちはレストランで昼食をとり、その後 **Cardiff Castle**（カーディフ城）に向かいました。ここはカーデ

イフの中心地にある観光スポットであり、施設内には日本語の音声ガイドによる説明も受けることができました。2時間程滞在し、時間も無かったのでその後はカーディフの街を散策し、各自お土産を購入したりしました。17時前にカーディフを出発し20時には大学に到着しました。



【カーディフ城にて】



【ウェールズ市街】



○8月2日（日）【サマースクール7日目】

この日は与謝野町アベリスツイス友好協会の Caroline さんと夫の Jake さんにアベリスツイス近郊を案内していただきました。Caroline さんと事前にメールでやり取りをしていたので、朝10時に大学まで Caroline さんが迎えに来てくださることになっていました。

はじめに、Caroline さんがアベリスツイスの旧 Town Hall 前にある桜の木を見に連れて行ってくれました。この桜は旧加悦町の時代にアベリスツイスに送った桜の木です。その後、エバンスさんのお墓参りに行くためにお花を買い、お墓がある TAL-Y-BONT という場所に向かいました。TAL-Y-BONT はアベリスツイスから北へ車で15分ほどのところにあり、その途中で昔エバンスさんと奥さんが住んでいた家を紹介していただきました。お墓に着き、私たち3人でお花を供え、それぞれの思いをお祈りしました。



【Caroline さんと桜の前にて】



【エバンスさんのお墓にて】

その後、Caroline さんの自宅に向かい、夫の Jake さんと合流しました。Caroline さんの自宅は MACHYNLLETH (マフハンレス) という地域にあり、エバンスさんのお墓からさらに北へ車で 10 分ほど行ったところがありました。Caroline さん、Jake さんと二人が日本に来た時の話やこれから行く場所のことなどを話し、昼食後に 5 人で Corris Railway Museum に行きました。ここは蒸気機関車に乗ることができる施設でした。その後、車で 30 分ほど移動し、Castle Y Bere という城跡に行きました。小高い丘の上に城跡はあり、周りも丘に囲まれていました。



【Caroline 宅にて昼食】



【Corris Railway Museum にて】



17 時頃に Caroline さんの自宅に戻り、近くの Fish and Chips (大きな白身魚フライとフライドポテト) のお店で夕食を買っていただきました。Fish and Chips をテイクアウトし、Caroline さんの自宅で食事をしました。その後 20 時過ぎまで滞在し、Caroline さんに大学まで送迎していただきました。車の中では友好協会の前会長であるアウエルさんの話や Caroline さんの娘さんの話をしてくださりました。私たちをもてなしてくださった Caroline さんと Jake さんには一日中お世話になり、感謝しきれない思いでした。



【Castle Y Bere にて】



【Caroline 宅にて夕食】

○8月3日（月）【サマースクール8日目】

本来9時から授業が始まりますが、9時の時点で14人中5人しか教室にいませんでした。韓国人留学生4人が30分遅刻してきたのと、中国人留学生3人が欠席していたのが原因で、9時30分までは先生の Ceylan と会話をして過ごすという状態でした。

はじめに、**British Culture** についてどんなものがあるか自由に発言し、ある程度発言があった後、**British Culture** で自分が好きなところ、好きではないところを自分で考えそれについて文章化するという **Writing** の授業を行いました。各自書き終わると、Ceylan に添削してもらい文法などの訂正を行いました。

その後、大学が実施するアンケートに答えました。内容は、サマースクールに参加するまでに与えられた情報は十分だったか、大学について初日のオリエンテーションでの説明は十分だったか、大学の寮は快適か、何かその他に要望はないかなどの質問に答えるものでした。

2限目は、はじめに英語の音楽を聞き、その曲に出てくる登場人物が何をしているかを予測するリスニングの授業を行いました。まずプリントが配布され、そこに4人の登場人物の名前が書いてあり、その人物が何をしていたかを選択肢から選ぶという流れでした。繰り返して2回聞き、解答後にもう一度聞きながら答え合わせを行いました。

その後、**Criminal Case** という授業を行いました。これは、1つの絵を見て、その絵から得られる情報を文章化するというものでした。複雑な授業ではなく、絵の中にあるもの（バラやピストル、ペンなど色々ありました）が「どこ」にあるのかを英語で表現するものでした。例えば、**The turtle is on the second shelf, next to rose.**（亀は2段目のカウンターの上において、バラの隣にいます。）というような流れです。すべての文を作り終わると、Ceylan が生徒を指名し答え合わせを行いました。この授業は語彙力の向上を目的にしていると感じました。

また、Rachael から副学長の John Grattan さんと Gary Rawnley さん (Acting Head of International office) と面会できる機会を調整してくれたという旨の手紙を頂いたので、Rachael に挨拶に行きました。Rachael は IEC のスタッフで、今回のサマースクールで最もお世話になった方でした。

この日は、一色さんが朝から体調を崩していたので授業は欠席し安静にしていました。一日様子を見て、それでも治らないようなら病院に行くことにし、Ceylan に事情を伝えると病院に行く際にはシェリーに報告し、必要な手続きをしていただけることになっていました。次の日には、一色さんの体調は回復していました。



【Criminal Case で使用した絵】



【Rachael との面会】

○8月4日（火）【サマースクール9日目】

9時から午前中の授業が始まり、先生は Gosia でした。授業のはじめに、今週からサマースクールに参加した留学生と合流しました。新しい留学生は20人ほどいて、私たちのクラスに合流したのは7人でした。（日本人大学生（愛知県の東海学園大学）が4人と中国人留学生が3人）まず全員で自己紹介をし、3グループ（5人×2と6人×1の計16人）に分かれました。私のグループは中国人留学生3人（そのうち2人が新人です）と和田さんでした。その後、アベリスツイスに来てグループのメンバー全員が共通して感じたこと、行ったことなどをディスカッションしながら10個考える授業を行い、「自分の国より寒いと感じた」や「大学内の図書館に行ったことがある」などが挙がりました。その後、各自3つの短文を作りそのことについてディスカッションする授業を行いました。内容は、2つは真実、1つは真実でない内容の短文を作り、グループのメンバーが質問して真実でない文を見極めるといふものです。これらはコミュニケーション能力の向上を目的にした授業のように感じました。

2限は11時から始まり、課題である Lip Sync Video についてグループワークの時間が与えられました。私たち3人は11時20分から副学長の Grattan さんと Gary さんと面会する予定が入っていたので、Gosia に事情を説明し授業を抜けさせてもらいました。

Grattan さん、Gary さんと挨拶をかわし、30分ほどお話をさせていただきました。与謝野町からのアベリスツイス大学への入学枠のことや、アベリスツイス大学から与謝野町へ学生を派遣する事業のことを話し、アベリスツイス大学から与謝野町への学生派遣事業の日程について、現段階では来年の1月を計画しているということでした。私たちの職業（一色さんは大学で専攻している科目）についても興味をもってください、また談笑をする場面もありました。他には、サマースクールは楽しめているか、何か要望はないかなど、私たちの意見を求めてくださる時間もありました。

午後は Special Interest のプログラムで National Library に行きました。ウェールズ国立の National Library は大学の隣にあり、科学の歴史的資料が数多く展示されていたり、また戦時中の写真を展示した特別展が開催されていたので当時の貴重な写真も多く見ることができました。



【左：Rachael 氏、中：Grattan 氏、右 Gary 氏】



【Grattan さん、Gary さんと面会】



【National Library】

○8月5日(水)【サマースクール10日目】

9時から授業が始まり、先生は **Ceylan** でした。**Ceylan** はこの週から合流した留学生との授業が初めてだったので、自己紹介から始まりました。その後、イディオムについての授業を行いました。内容は、合計で10個ほどのイディオムを、少しずつヒントが与えられていくなかで意味を推測していくというものでした。イディオムとは日本でいう熟語や慣用句のことです。全てのイディオムの意味を理解した後に、勉強したイディオムの意味をジェスチャーのみで推測するというゲーム形式の授業を行いました。この授業は語彙力の向上を目的としていると感じました。

2限目は **Fortune Teller** という授業を行いました。**Fortune Teller** とは日本語で「占い」という意味で、はじめに **Ceylan** がタロットカードを使って実際に生徒を対象に占いをしました。その後、2グループ(7人×2)に分かれ、片方のグループは手相占い、もう片方はトランプ占いについて学習しました。私はトランプ占いのグループで、13枚のトランプを使い、それぞれのカードが持つ意味について学びました。占いをする際は、13枚のカードから1枚を選んでもらい、そのカードの意味を相手に伝えます。最後に、手相占いについて学んだグループはトランプ占いグループの人の手相占いをし、トランプ占いグループの人にトランプ占いをしてもらった時間が与えられました。私は中国人の **Song** という留学生とペアになり、占いを行いました。

この日の夕方からは、友好協会の **Ceredig** さんにアベリスツイス近郊を車で案内していただきました。8月3日(月)か4日(火)の予定でしたが、その日は急遽サマースクールのグループワークの予定が入ってしまったため、**Ceredig** さんが予定をずらしてくださりました。



【Ceredigさんとの交流】

○8月6日(木)【サマースクール11日目】

この日の先生は **Gosia** でした。はじめに、2グループ(5人×2)に分かれ一人ひとりに2枚の絵(私は万里の長城とクジラでした。)が配られ、その絵についてのヒントを考えグループメンバーにそれが何かを当ててもらったゲーム形式の授業を行いました。

その後、**Reading** の授業を行いました。内容は、1人の女性のプロフィール(結婚相談所に登録しているという設定です。)を見て、そこにどんな事が書かれているか、どんな人をパートナーとして求めているのかなどを考えていくというものです。はじめに各自で考え、その後グループディスカッションを行い答え合わせをしていく流れでした。次に、1つの絵(12コマに分かれた漫画)を見て、そのストーリーを予測するという授業を行いました。これもグループで考えることが条件でした。



【12コマの漫画】

2 限目は Lip Sync Video の課題に取り組む時間が与えられ、各グループで撮影を行いました。

午後からは Special Interest があり、アベリスツイス大学の Old College (旧キャンパス) に行きました。そこでは Old College の歴史について学び、施設の見学を行いました。



【Old College】

○8月7日(金)【サマースクール12日目】

この日がサマースクール最終日でした。先生は Ceylan で、はじめに Cultural Exchange Acting という授業を行いました。内容は異文化交流のようなもので、まず Ceylan がトルコ出身であったのでトルコの文化についていくつか説明してくれました。内容は挨拶の交わり方(男性同士の場合や女性同士の場合、ビジネスシーンの場合など)や伝統料理についてでした。それらを勉強した後に、それぞれの国(中国、韓国、スペイン)の挨拶の交わり方や伝統料理について学びました。

2 限目はサマースクール最後の授業でした。この日までの課題であった Lip Sync Video をサマースクール参加者全員で鑑賞し、合計 5 つの Lip Sync Video を見た後に参加者たちの投票により Best Video が決まりました。その後、ひとりずつ先生から修了証を受けとりサマースクールの全プログラムが終了しました。

授業が終わり、最後にサマースクール参加者全員で写真撮影を行い、お世話になった Rachael や先生の Ceylan や Gosia と会話をし、解散となりました。



(左: Ceylan、中: Gosia、右: Rachael)



【記念写真】



(イタリア人のエネルギー)

○8月8日（土）～9日（日）

【内容】

- ・移動（アベリスツイス大学～バーミンガム空港～ドバイ空港～関西国際空港～与謝野町）

朝6時30分に学生寮を出発し、**Campus Reception**に学生寮の鍵を返却後、アベリスツイス駅に向かいました。アベリスツイス駅では、与謝野町アベリスツイス友好協会の**Jake**さんが見送りに来てくださりました。7時30分発の鉄道に乗り、11時にバーミンガム空港へ到着しました。12時には航空チケットの発券は完了し、14時20分発の飛行機（バーミンガム空港～ドバイ空港）に搭乗しました。乗り継ぎ先のドバイには、ドバイ時間の深夜0時40分に到着し、3時00分発の飛行機（ドバイ空港～関西国際空港）に搭乗することができました。日本時間の17時15分頃、関西国際空港に到着し谷口さん、渡邊さんと合流することができました。



【アベリスツイス駅にて】



【バーミンガム空港から出発】

(6) おわりに

・今回私が参加したアベリスツイス大学サマースクール CS3 コースですが、「難しくできない」といった内容の授業はなく英語に興味がある人であれば挑戦できるレベルであると感じました。授業は日本の英語の授業（高校までの文章理解、文法学習、リスニングなど）のように英語を学ぶということよりも、英語を使うことが目的でほとんどの授業は周りとのコミュニケーションを取りながら取り組むという形式でした。英語を使って自分から発言する必要はありますが、同じくらいの年齢、英語力の受講生でクラス分けがされるので、グループディスカッションについていけないと悩むこともそれほどないと思いました。

・留学は、海外の文化を知ることによって自分の性格に合った生き方ができる場所を見つけることができる機会になると感じました。海外での生活を通して、日本以外にも自分の能力を発揮できる場所があると感じることができると思います。日本人は内気で謙遜的な人が多いかもしれませんが、自己表現が得意で積極的な人もいます。また日本では内気な人でも、海外では積極的になれる人もいます。留学を通して文化の違いを経験することで新しい価値観が生まれる可能性があると思いました。日本で生活していただけでは感じられなかったことが必ずあると思うので、一度海外での生活を経験してみることが何よりも大事だと思いました。

・アベリスツイス滞在中、友好協会の **Caroline** さんと **Jake** さん、**Ceredig** さんと面会させていただきましたが、本当に親切にしてくださったことがとても印象に残っています。**Caroline** さんと **Jake** さんがエバンスさんのお墓を含めて一日中いろいろな場所を案内してくださったことや **Ceredig** さんの私たちへのご厚意は、旧加悦町時代からのアベリスツイスとの交流の深さを感じる機会となりました。また、サマースクール参加者も留学のみが目的ではなく友好協会の方々と交流することも目的の一つであることを認識しておく必要があると感じました。

以上になります。

今回アベリスツイス大学サマースクール留学事業に参加させていただくにあたり企画財政課のみなさまには多くのご協力を頂きました。特に和田係長、細見主事には私の仕事を引き継いでいただき、また小谷係長と谷原さんには本事業に参加するうえでのアドバイス等を頂きました。あらためて、ここにお礼を申し上げます。

2015アベリスツイス大学サマースクール留学事業研修報告書
平成27年10月発行

編集発行 京都府与謝郡与謝野町字岩滝1798番地1
与謝野町企画財政課
電話：0772-46-3084
(表紙：CS3 集合写真)

